

第25号 年の瀬が近づいてまいりました



エメラルド通信

【発行】
令和3年 冬
【発行者】
エメラルドサポート

緊急事態宣言も解除され穏やかな日常が戻りつつあります。平年に比べ温かい秋となりましたが、気象庁によると、この冬は平年より寒い冬になるとの予想です。また、本年は例年に比べインフルエンザが流行すると言われております。

スタッフ一同、体調管理には十分に留意し、ご利用者様へご迷惑をお掛けすることのないようこの冬を乗り切りたいと思います。

さて、今回のエメラルド通信は、弊社の新規事業「デジタル活用支援」や新入社員紹介、年末年始窓口休業のお知らせ等をお届けいたします。是非、お手にとってご覧ください。

少し早いご挨拶となりますが、本年もエメラルドサポートをご利用頂き誠にありがとうございました。

来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



デジタル活用支援推進事業とは？

総務省では令和3年度から、高齢者・障がい者等が身近な場所で、身近な人からデジタル活用について学べる講習会等を推進する「デジタル活用支援推進事業」を開始しています。

エメラルドサポートは7月20日に事業委託を受け、10月11日より「デジタル活用支援推進事業」として「視覚障がい者向けiPhone講座」がスタートしました。第1回目の様子は次ページに掲載させて頂きましたので是非ご覧ください。



窓口休業のお知らせ

年末年始の窓口休業は下記の通りです。予定の変更はお早めにご連絡をお願いします。

令和3年12月29日から令和4年1月3日まで

【訪問介護部】

【相談支援部】

【日中一時支援】

047-351-4140

047-351-4155

047-702-9808

《受付時間》平日9:00~17:00

お知らせ

デジタル活用支援スタートしました

国が新たに創設した「デジタルの日（10月10日）」にあわせて障がい者向け iPhone 講座を10月11日（月）に開催しました。

この講座は、総務省の「デジタル活用支援事業」として受託された講座です。全5回の講座と、2回の相談会を予定しています。

※現在、受講者は定員に達しているため新規受付は行っておりません。



「見えないのにどうやってスマホを操作するの？」

と、ビックリされるかもしれませんが、実は iPhone には視覚障がい者向けの読み上げ機能（ボイスオーバー）が標準で搭載されています。

その機能を使ってスマホを操作する講座です。

参加当日の受講者様は、緊張の面持ちで席についていましたが、障がい当事者でもある瀧本先生の経験談を交えた解説で徐々に緊張がほぐれ、ご自身の iPhone を怖がらずに操作する姿がみられました。



第1回目の講座では、iPhone のボタンの位置などを確認しながら、電源の ON/OFF などの基本操作や、ボイスオーバーでの基本的な指の動かし方（ジェスチャー）をレッスンしました。

レッスン中は、瀧本先生の解説とお手本の後に、1人1人順番に操作します。

1人の操作が成功すると、周りから拍手が送られる。

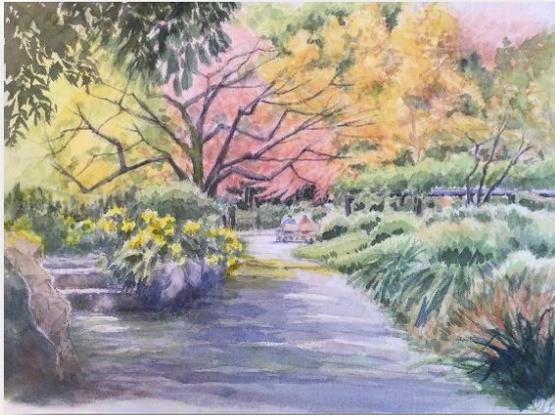
そんな和気あいあいとした雰囲気の中でレッスンは進んでいきました。講習後のアンケートでは、「わかりやすかった」というご意見を多くいただくことができました。

全5回の講座を終えるころ、受講者の方々が「私には無理」と思っていたことが、「やればできる！」に変わり、様々なITサービスを利用して生活を豊かにするきっかけになればと思っています。



エメラルド広場

皆さまから提供いただいた作品をご紹介します。
どうぞ、ごゆっくりとお楽しみください。



「晴れた日はスケッチ歩き」

私は10年程前に将来に向け何か趣味があった方がいいと思い、以前から興味があった水彩画をカルチャースクールで習い始めました。屋外スケッチに面白さを感じ、今では近くの公園とか気が乗れば横浜、鎌倉辺りまで足を伸ばして、仲間と一緒にスケッチを楽しんでいます。

身近な何気ない風景でも、絵にすることでその時の思い出と、小鳥のさえずりまでも鮮明に蘇ってきます。上手く描けなくても気にしない、気にしません。ゆったりと流れる時間を

体感し、その時の感動を留めて自由に描くことをモットーにスケッチブックを広げます。今までスケッチの楽しみがあったからストレスをため込まずに仕事を続けてこられたと思っています。

「少し時間があればスケッチに出かけてみませんか？」 風景スケッチはスケッチブックとエンプツがあれば誰でも楽しめます。そしてその場で色をつければ楽しさも倍増。遠くへ行かなくても、日常を少し離れた場所に出かけてスケッチのひとときを持つと、とてもぜいたくで充実した1日を過ごせますよ。この絵は数年前、12月初旬に日比谷公園に行った時に描いたものです。

訪問介護部：石橋 郁子

新規スタッフの自己紹介

八矢 愛さん

10月に入社をした八矢愛（はちや あい）と申します。

前職は事務職で顧客対応に携わり、人と触れ合えることにやりがいを感じていましたが、リモートワークが導入されたことで人とのふれあいが減少してしまいました。このことをきっかけにたくさんの人と関われる介護の業界に飛び込んでみました。

不慣れな私に利用者さんは優しい言葉をかけてくれたり笑顔をみせてくれたりします。

私も早く一人前になり、利用者さんと同じように笑顔と優しい言葉を返せるようになりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

小田 サエ子さん

12月より入社致しました。小田サエ子と申します。

訪問介護の分野は、初めてで不安もありますが、しっかり学び、ご利用者様と真摯に向き合い信頼していただけるように笑顔と優しい言葉を返していきたいと思っております。

どうぞ皆さま宜しくお願い致します。

エメラルド交差点

日常の「クスッ」となること「ビックリ！」したこと「ホッコリ」すること。
利用者様とスタッフが自由に交流できる投稿コーナーです。

#10、今日の装い

カラカラと枯れ葉が舞う並木道。カサカサ、クシュクシュと自転車の車輪が落ち葉を踏む音。そして、漂う金木犀の甘い香り。

秋空の下、澄んだ空気を吸い込もうと鼻を膨らませる。むせた。そうだ、マスクをしていた。遠慮がちに深呼吸、すぐにマスクをつける。ウィズコロナ、引き続き油断せず、気を引き締めてと自分に言い聞かせる。

日中一時では、当日のみなさんの装いについてお話をさせていただいています。今回も話が弾みました。

とても数十年も愛用しているとは思えないほど丁寧に着ているお洋服は、よく似合っています。何色を着てきたのかわからないの、と話されるがとても上品です。

お洋服は茶系が好みだけれど、今日は青紫に冒険してみたの、とスタイリッシュです。

ご利用者様だけではなく、スタッフの装いもみなさんにお伝えします。

「しまった！」いつもの服にいつもの靴だ。と慌てる私。いつものように伝えるしかない諦める。

日中一時支援管理者：加藤 真由美



なぞなぞコーナー

日中一時で予定していた【みんなでやれば10倍楽しい】笑顔で脳を鍛えましょうを当日はできなかったのでせっかくなのでここで紹介します。

1 問目 あなたは200円持っています。100円のパンをかうとお釣りはいくらでしょうか？

答え→100円玉1枚、50円玉2枚、、、お釣りはありません。

2 問目 重い荷物を持ったおじいちゃんがバスに乗ってきました。けれど、誰も席を譲りません。なぜでしょうか？

答え→空気があったから。

3 問目 春、夏、秋、冬、一年の中で1番長いのはどれでしょうか？

答え→一年。



エメラルドの光

12月のエメラルド日中一時支援サービス（対象 視覚障がい者）で「ふわふわの毛糸を使ってマフラーや帽子を編もう。」指編みの講座で使う毛糸を買いに移動支援を利用し、毛糸や枠などの買い物をした後、お昼にモナの〈コメダ珈琲店〉でランチを楽しんだ後解散の予定で出かけました。

出かける前の打ち合わせでは、「毛糸を買うのにそんなに時間はかからないのでは。」という意見もありましたが、企画担当者のアイディアは見事に成功しました。

私たち視覚障がい者は自分のイメージできる範囲のものを買いに行くのが日常のお買い物で、いわゆるウインドウショッピングをする時間や今どんなものが流行っているのか、どんなものが店内に並べられているのかをゆっくりと見たり、楽しんだりする時間は目が見える人たちに比べはるかに少ないのです。お目当ての毛糸等を購入後、モナの〈コメダ珈琲店〉に集合の予定で自由行動となりました。

当日はイオンに集合し、ひと気のない一角で、いつもの「今日の装い」のテーマで参加者それぞれが今日はどんな服を着て参加しているかを説明しあいました。見えない私たちは、どんな素材なの？どんなデザインなの？」などと互いの服を触れながら、「まあ素敵ね。」「どんな色なの？」「チェック柄の色は？」等ペアを組んでいるガイドヘルパーさんの説明も得ながら一盛り上がり。

その後、自由行動に移り、それぞれガイドヘルパーさんとペアで店内を案内してもらいながら散っていきました。

待ち合わせ時間ぎりぎりまでショッピングなどを楽しんだ後のランチタイム。事前に企画担当のKさんがお店と交渉し、人数分に切り分け、参加者の好みのメニュー6種類を六等分し、各人のプレートに取り分けて出していただいたので、「あなたが食べているのなーに。」「それどんな味なの？」「それおいしそうね」などの会話をする必要がなく、「マスクを外した状態でのお話は禁止です、食べ終わってからのお話にしてください。」の事前の約束は固く守られました。

ランチのサンドウィッチの等分はできても、飲み物はそうはいきません。カフェオレの大きいサイズ、コーヒー、紅茶、など各人の飲み物が着た途端、「みんなの視線が痛くないですか。」Kさんが耳元で囁きました。私はミルクティーにあんこが入った（コメダ珈琲店にしかない）「さくら」を飲んでいたのでした。

ボリュームたっぷりのランチを六種類、若い人でも食べきれない大盛ランチ、「残りはお持ち帰りできます。」と持ち帰り用のホイルと袋も用意されていました。

いろんな種類の品をゆっくりと楽しめた私たちは、胃袋も心も大満足。お店を出てからの会話も「一度にいろんな種類のランチを楽しめてよかった。」「一人ではこんな楽しいこと経験できないわ。」などと、感激の言葉ばかり。

企画と準備を担当したKさんも「みんなの喜ぶ顔がうれしかった。」と晴天の空を見上げてうれしそう。「とても楽しかったわ。」「来月またお会いしましょう。」Kさん、Tさんの指導による〈指編みでマフラーや帽子を作ろう講座〉が楽しみだ。

エメラルドサポート(株)代表取締役 佐藤 尚美